

政務活動費 活動実績報告書

件名	会派「政策ミライ」先進事例視察研修
使途	1 調査研究費 2 研修費 5 要請・陳情活動費 自費
金額	19,927円
期日	令和8年2月5日（木）～令和8年2月6日（金）
場所	① 宮崎県東諸県郡綾町 ② 宮崎県小林市
目的	① 学校給食の地産地消及び有機農業推進施策について ② シティプロモーションの取り組みについて
報告者	八女市議会議員 原田英雄
参加者	中島信二、高橋信広、栗山徹雄、坂本治郎
概要	<p>1 宮崎県東諸県郡綾町（説明：議会事務局新宮領局長、農林振興課森本係長、永井氏、教育委員会 教育総務課森本係長、古高主事）</p> <p>○学校給食の地産地消及び有機農業推進施策について 歓迎あいさつ（綾町議会 副議長 児玉 信 氏）</p> <p>（1）綾町の概要</p> <p>人口6,463人（R7.11.1現在） 面積95.19㎢、山林80%、そのうち80%が国有林 日本最大規模の照葉樹林→1982（S57）年に九州中央山地国定公園に指定 農家戸数：294戸、24法人、農地：442ha、粗生産額：4,155百万円</p> <p>○綾町憲章（昭和58年3月制定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自然生態系を生かして育てる町にしよう</u> ・ 健康で豊かな活力ある町にしよう ・ 青少年に誇りと希望をいだかせる町にしよう ・ 生活文化に創意と工夫をこらす町にしよう ・ 思いやりとふれあいで明るい町にしよう <p>（2）綾町自然生態系農業</p> <p>①綾町が推奨する農業＝自然生態系農業</p> <p>自然生態系農業とは、自然の摂理を尊重し、自然生態系を有効に生かした農業のこと。 <u>自然を壊さずに自然の力を生かした農業</u></p>

→化学肥料や農薬などの化学合成物質を使用せず動物性堆肥や自然由来の肥料等を使用する農業のこと

自然生態系農業のポイント

- ・化学肥料、農薬などの合成化学物質の利用を排除すること。
- ・本来機能すべき土などの自然生態系を取り戻すこと。
- ・食の安全と健康保持のために、遺伝毒性を除去する農法を推進すること。
- ・遺伝子組み換えの作物を栽培しないこと。

もっと具体的には

- ・土壌分析、診断を行う。
- ・有機質肥料や天敵、微生物農薬等を利用する。
- ・土壌消毒剤、化学合成農薬、除草剤は使用しない。
- ・遺伝子組み換え作物の栽培は行わない。

※綾町自然生態系農業の推進に関する条例（昭和63年7月制定）

※ターニングポイントは昭和42年の照葉樹林伐採計画への反対運動

- 自然保護運動から国定公園指定運動へ発展
- 自然環境保全への町民意識の変化
- 2人の町長のリーダーシップあり
- 2012年にユネスコエコパークに登録

②自然生態系農業の認証制度

- ・農地認定＋生産管理認定＝総合判定（有機JAS認証、金、銀、銅）
- ・農産物に金銀銅のラベルを貼付しグリーンコープ、直売所（ほんものセンター）販売
- ・「ほんもの」を学校給食に提供
- ・消費者との交流イベント開催

（3）推進体制

- ① 綾オーガニックスクール：地域おこし協力隊へ2年間の就農実践研修を行い新規就農者の確保へ
- ② 合同会社アヤオーガニックワークス：有機農業生産者育成と栽培技術の継承を目的とした学校を作ると有機JAS取得農家4人で設立

（4）有機給食の取組み

※綾町オーガニック給食の推進に関する条例（令和5年3月制定）

学校給食へ多くの地元オーガニック食材を提供することで将来を担う子どもたちが食や環境への関心、郷土愛を深めることを目的としている。

- ・綾ほんものセンターより献立に基づき配送、不足分は一般調達
- ・オーガニック推進補助金：小学校一人500円／月、中学校一人600円／月（R6年度）
- ・児童生徒と生産者との交流会実施
- ・学校給食の地産地消率：約36%（金額ベース）野菜を中心に年々増加中、特に特産のきゅうりはほぼ100%供給、今後とも品目拡大をめざす（味噌等）

（5）質疑

Q1 給食単価は？補助は？

A1 一食あたり小学校315円、中学校366円。40%補助している。

Q2 地元JAもあると思うが関係はどうか？

A2 歴代町長は元JA組合長でありうまくいっている。

Q3 慣行農業と有機農業が混在しているが、ドリフトの問題などはないか？

A3 長い期間取り組んできているので、特に問題はない。

Q4 全国的に農業担い手は不足している中、有機農業に興味を持って移住されている人も多いみたいだが、担い手の確保に繋がっているか。地域計画の受け手となっているのか。

A4 そこまでには至っていない。未だ担い手、後継者不足は否めない。

2 宮崎県小林市（説明：議会事務局四元主幹、地方創生課係長）

○シティプロモーションの取り組みについて

歓迎あいさつ（小林市議会 総務文教委員長 竹内 龍一郎 氏）

（1）小林市の概要

人口：41,975人（令和7年3月1日現在）、世帯数：22,020世帯

高齢化率：38.9%、面積：562.95km²

基幹産業：肉用牛や乳牛、養鶏、養豚等の畜産、メロンやマンゴー等の園芸などの農業

日本最大規模の照葉樹林：自然遺産（霧島ジオパーク、綾ユネスコエコパーク）、名水

（2）シティプロモーション

①背景

自治体主体のインパクト重視のPRから、1億総メディア時代の社会にならい、より共創・協働を意識したプロモーションへシフト

②コンセプト

- ・発信（みんなでハッシン）
- ・発進（新たな形で情報ハッシン）
- ・発振（ハッシンの波を起こす）

ハッシンをキーワードに多様な人と一緒になって小林市の魅力を広める。

③展開イメージ

- ・関係人口の拡大
- ・外貨拡大（ふるさと納税、消費流通拡大）
- ・人口減少対策
- ・地域経済の活性化
- ・地域魅力の再発見
- ・郷土への愛着

④体制

担当課：地方創生課プロモーショングループ

事務分掌：プロモーション、ふるさと納税、各種寄付受付、出身者会等

KPI：関係人口、ふるさと納税

体制：マネージメントリーダー以下9名

主な業務：公式SNS、小林ファンサポーターズクラブ、メディア連携、企業連携、独自のプロモーション事業、各種寄付受付、広告運用など

⑤具体的な取り組み

- ・第1弾コンセプトムービー「SNSはじめます篇」

地元3人のおじさんが主役でSNSに挑戦する全5話構成の動画でテレビ放映もされ、テレビ宮崎主催のCM対象で最高賞を受賞。

	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を見たことから始まった地元小学校6年生による観光パンフレット作成 ・高校生記者クラブによる広報こぼやしへの記事掲載、インスタ等SNS運用 ・地元出身有名人PR大使（蛙亭イワクラ、吉野北人）によるプロモーションハッシンコバヤシSNS動画 3,000 万回超再生 ロケ地巡礼キャンペーン年間延べ数千人、都市部でのポップアップショップ ポスター、カード、マップ、コラボグッズ販売（一部は小林市来訪者のみへの特典） ファンのSNS投稿による二次的なPR効果 <p>⑥企画の概要と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○吉野北人さん主演のPRムービー：2700 万回再生 ・都市部での販売交流イベント（東京 2 回、福岡、大阪、名古屋計 5 回）： 述べ来場者 28,500 人、売上 1,160 万円 ・ロケ地ラリー：述べ参加者 3,500 人 ・小林市ファンサポーターズクラブ：会員数 27,100 人に倍増 ・公式SNS：フォロワー57,550 人 ・来訪者の属性変化（若年層増加） ・小林市魅力の再発見（人の優しさなど） ○蛙亭イワクラさん（吉本興業所属）コラボ CM（西諸弁活用） ・市民キャストとのふれあい ・地元テレビ局との連携 ・CMに合わせた地元でのキャンペーン ・イワクラさんの出演番組から全国への広がり ・吉本興業の支援拡大（小林市でのお笑いライブ開催など） ○コバヤシサポーターズクラブ：令和 3 年 18,500 人→令和 7 年 33,000 人 ○公式 SNS フォロワー数：令和 3 年 6,726 人→令和 7 年 65,000 人 ○その他：作成したTシャツなどを芸能関係者に贈呈することでテレビ番組に出演する際に着てもらうことで宣伝になっている。 <p>(3) 質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> Q 1 グループ制の内容は？ A 1 課内で連携して取り組む仕組みをグループとしている。 Q 2 コバヤシファンサポーターズクラブとふるさと納税との繋がりは？ A 2 サポーターズクラブに色んな情報を提供し、ふるさと納税も宣伝している。 Q 3 関係人口にふるさと納税者を含めているのか？ A 3 議論があるところだが、小林市は含めている。その他にファンサポーターズクラブやSNSフォロワー数をKPI指標としている。
<p>所感</p>	<p>今回は、有機農業と地産地消及びシティプロモーション取組み事例の調査を目的に全国的に有名な2自治体を選考した。</p> <p>綾町では、地域資源として豊かな自然環境を背景に歴代町長のリーダーシップの元で「ほんもの農業」を展開することからスタートし、将来を担う子どもたちへ有機農産物による学校給</p>

食、食育に取り組み、近年は有機農業に取り組む地域おこし協力隊を募集しながら担い手確保にも取り組んであった。

小林市では、一般的にプロモーション事業は役所と委託民間業者のみで実施しがちであるが、地元住民を巻き込むことで内外に多様な効果を上げており、特に小学生から高校生まで多くの段階で関わりを持つことで地元愛が深まっており、その工夫と成果に感心させられた。

今回の視察テーマは、いずれも本市の重要な課題の一つであり、地産地消については地元農産物生産の在り方とともに学校給食との連携について改めて考えさせられた。また、シティプロモーションについては、特に本年4月からスタートする本市のシティプロモーション課の業務展開について小林市の先進的な取組みは大変参考になる点が多く、今後一般質問等で執行部へ提案するなど生かさせていただきたいと思う。

綾町及び小林市におかれては、衆議院議員選挙前の大変多忙な時期にもかかわらず懇切丁寧にご教示頂き、この場を借りて深く感謝申し上げます。両自治体のご繁栄とお世話いただいた職員各位のご健勝を祈念申し上げます。誠にありがとうございました。

